

令和元年度九州地区大学体育協議会
体育系学生リーダーズ・トレーニング
報告書

当番大学：第7グループ

福岡教育大学・福岡県立大学・福岡女子大学・九州産業大学・
近畿大学産業理工学部・近畿大学九州短期大学・福岡工業大学・福岡工業大学短期大学部

事務局大学：福岡県立大学・福岡女子大学

開催場所：福岡県立社会教育総合センター

開催日時：令和元年10月12日～14日

令和元年度 九州地区大学体育協議会
体育系学生リーダーズ・トレーニング実施要項

1. 目 的 体育系サークルのリーダーを対象に、リーダーとしての知識を習得し、また責任、役割を身につけるとともに、九州地区大学体育の活性化等並びに大学間相互の連帯意識の育成及び体育系サークルリーダーとしての資質向上を図ることを目的とする。
2. 期 日 令和元年10月12日(土)～14日(月)
3. 場 所 福岡県立社会教育総合センター
〒811-2402 福岡県粕屋郡篠栗町金出3350番地2
4. 日 程 別紙のとおり
5. メインテーマ 組織の輪を繋ぐ3Cを学ぶ
～ Communication・Cooperation・Connection ～
6. 参加資格 次のいずれかに該当し、全日程に参加できる者
(1) 加盟大学の体育系サークルを統括する学生
(2) 体育サークルの指導・助言を担当する教職員
(3) 九州地区大学体育協議会総務委員会の体育教員
※途中参加の場合は、事前に申し出て許可を得ること
7. 参加者数 110名(学生99名、教職員11名)
8. 参加申込 所定の様式により、学生部長(相当職)名で申し込むこと。
9. 参加費 学 生 6,000円 (食費・交流会費・保険料を含む)
教職員 6,000円 (食費・交流会費・保険料を含む)
※途中参加もしくは途中帰宅したものは返金いたしません。
10. 内 容 (1) 開会式及びオリエンテーション (30 分)
(2) 講演、分科会及び講評等
* 基 調 講 演 (60 分)
* 分科会Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ (450分)
* 発表会、講評及び閉会式 (120分)
11. そ の 他 参加費で下記補償の保険を掛けるが、下記以外については参加者各自で対応すること。
保険内容 死亡・後遺障害 750万円
入院日額 6,000円
通院日額 4,000円

令和元年度九州地区大学体育協議会
体育系学生リーダーズ・トレーニング 日程表

1日目	10月12日(土)	2日目	10月13日(日)		3日目	10月14日(月)			
		6:30	起床		6:30	起床			
		6:50	クリーンタイム		6:50	クリーンタイム			
		7:05	(宿泊室・研修室清掃)		7:05	(宿泊室・研修室清掃)			
		7:15	朝の集い		7:15	朝の集い			
		7:30	朝 食		7:30	朝 食			
		9:00	途中参加 受付	9:00	全体清掃				
				9:30	発表会、講評及び閉会式				
		11:30							
		12:00		11:30			解 散		
		12:00		昼 食		当番大学 福岡教育大学 福岡県立大学 福岡女子大学 九州産業大学 近畿大学産業理工学部 近畿大学九州短期大学 福岡工業大学 福岡工業大学短期大学部			
13:00									
13:00	13:00	分科会Ⅲ							
13:30	受 付								
13:30									開会式
14:00									オリエンテーション
	自由時間								
14:30	基調講演	14:30	レクリエーション						
15:30		14:50							
15:30	分科会Ⅰ								
17:00		17:00							
17:15	夕べの集い	17:15	夕べの集い						
17:30	入浴・夕食	17:30	入浴・夕食						
19:40		19:30			分科会Ⅳ				
		19:30							
20:00	交流会	21:00	自由時間						
22:00		21:00							
		22:00							
22:30	消 灯	22:30	消 灯						



基調講演 講師紹介

小嶺 忠敏 氏

長崎総合科学大学総合情報学部総合情報学科 教授
長崎総合科学大学附属高等学校 サッカー部監督
長崎総合科学大学 サッカー部総監督
NPO法人V・ファーレン長崎スポーツコミュニティ 理事長

【経歴・実績】

1945（昭和20）年生まれ
旧長崎県南高来郡有家町出身
大阪商業大学卒
元長崎県立島原商業高等学校サッカー部監督
元長崎県立国見高等学校校長・同校サッカー部総監督
全国大会（高校総体・国体・高校選手権・全日本ユース）出場107回、優勝17回
元日本サッカー協会日本ユース代表（U-19）総監督・日本ユース代表（U-17）監督

著書：『国見発 サッカーで「人」を育てる』（NHK出版）

関連図書：『動!小嶺忠敏のサッカー熱い風』 大貫 哲義 著（日本テレビ出版部）

『小嶺忠敏情熱サッカー主義』 田中 耕 著（西日本新聞社）

【実績等】

- 1985年 長崎県民表彰特別賞
- 1988年 長崎県民栄誉賞第1号
- 1994年 ミズノメントール賞
- 2001年 朝日スポーツ賞
- 2004年 長崎新聞文化章
- 2005年 文部科学大臣表彰〔教育者表彰〕
- 2007年11月 長崎総合科学大学教授に就任
- 2008年より 長崎総合科学大学および同附属高等学校サッカー部総監督

基調講演

講師：長崎総合科学大学総合情報学部総合情報学科

教授 小嶺 忠敏

【内容】

① 長崎県サッカー界のこれまでの歩み

小嶺氏より、これまでの長崎県高校サッカー界が歩んできた歴史、どのようにして全国制覇を成し遂げたのかなど、ご自身の経験をもとにご教授いただいた。

② リーダーのあるべき姿

リーダーとして大切なのは、「自分自身を律すること」「率先してやる姿を見せること」である。指導者として、長年にわたり指導する中で、練習や試合には無遅刻無欠席を徹底し、生徒にその姿を見せることで、指導に説得力を持たせた。

③ 世界を知ることの重要性

リーダーには、視野の広さ、考え方の多様性が求められる。そのような力を磨くには、世界をみて、異文化を知り、歴史を知ることが重要である。

④ リーダーに求められる素質

これからのリーダーに最も求められるのは「分析力」である。万能な人間はいないため、組織個々人の個性を見抜き、それぞれの強みを組み合わせることで、強い組織が成り立つ。リーダーはそれらを分析する力が必要である。

分科会報告

<分科会Ⅰ>

【テーマ】

- ①～他者から気づくリーダーシップ～
- ②コミュニケーションスタイル

【内容】

- ①ある部活のリーダーとなり、2パターンの異なるタイプの部員に対するアプローチの仕方などについて考え、グループで共有する。
- ②簡単なアンケートに答え、4つの異なるタイプについて、自分自身がどのタイプの傾向が強いかを測定し、グループで共有する。

【結果】

- ①学生ごとに異なったアプローチの仕方があり、それを共有することで、それぞれが所属する組織に還元できる方法などを学んだ。
- ②自分自身がコミュニケーションをとるうえで、どのような傾向があるのかを知り、今後、組織でコミュニケーションをとる際に意識すべきことなどを学んだ。

<分科会Ⅱ>

【テーマ】

SDGs×コーチングから学ぶ

～2030SDGs カードゲームを通して SDGs 理解をもとにリーダーとしての次の一步を考える～

【講師】

九州産業大学学生係長 一ノ瀬 大一

【内容】

まず簡単なゲームを通してアイスブレイクを行った後、コーチングとは何かについて講義を受け、ペアを使ってコーチングを実際に行う。

その後、全体を2つの世界に分け、グループを作り、SDGs カードゲームを行った後、全体の振り返りを行う

【結果】

コーチング＝成果を挙げたリーダースキルを体系化したものであり、講義を受けた上で実際にコーチングをしたことで、リーダーとしてのスキルアップに繋がった。

また、SDGs カードゲームを通して、積極的にコミュニケーションをとることの重要性、SDGs の必要性や可能性について体感することができた。

<分科会Ⅲ>

【テーマ】

LEGO シリアスプレイを活用して組織のリーダー像を考える

【講師】

九州産業大学商学部長 間間 理

【内容】

以下のテーマに沿って、LEGO ブロックで表現し、作品について説明する。

- ①最も高いタワーを建てる。
- ②ある場面の「私」としてモデルを使って語る。
- ③悪夢のような指導者とは。
- ④あなたの所属する組織が抱える真の問題とは。

【結果】

与えられた課題について各人がそれぞれブロックを使って表現し、各グループ及び全体で共有した。

一つとして同じ完成物はなく、それぞれが抱える組織の問題点を共有し、それを分類化することで、解決策などを共同で考える機会となった。

<分科会Ⅳ>

【テーマ】

- ①大事なものはチームか、それとも個人か
- ②良い組織は Cooperation(協力)している
- ③リーダーに求められる 3 C

【内容】

①②では、ある想定をもとに、自分自身がリーダーとしてどのような判断を下すかを考え、グループで共有する。

③では、コミュニケーションをとる際の意識について考え、共有する。

【結果】

①②では、それぞれがその判断をした理由を説明し、議論を交わすことで多様な考え方を学んだ。

③では、それぞれが普段のコミュニケーションをとる際に意識していることを説明し、共有することで、コミュニケーション能力の向上に繋がった。

交流会・レクリエーション

<交流会>

参加者同士の交流、分科会等での議論などの充実を図るため、グループに分かれいくつかのゲームを行い、アイスブレイクを行った。

【内容】

- ・プロフィール当てゲーム
- ・ワードウルフ
- ・聖徳太子ゲーム
- ・NGワードゲーム
- ・爆弾ゲーム

<レクリエーション>

分科会班の交流をさらに深めるとともに、全体でのコミュニケーションを図るため、8種類のレクリエーションを行った。

【内容】

①的当てクイズ

様々なジャンルの的にボールを当てて、的に書かれたジャンルのクイズを行う。

②ビーチペットボトル

ビーチフラッグの要領でペットボトルを先にとった方がクイズの解答権を得る。

③ビンゴゲーム

3×3の9個のマーカーコーンにボールを置き、ビンゴを先に作ることを競う。

④しりとりバレー

チームで輪になり、バレーボールをレシーブしながらしりとりを行う。

⑤並べ替え大縄跳び

大縄跳びをしながらお題に沿った順番に並び替わる。

⑥風船運びゲーム

2人1組になってうちわで風船を運び、その速さを競うゲーム。

⑦フリスビーキャッチ

投げ手、取り手、拾い手に分かれフリスビーキャッチを行うゲーム。

⑧ディープ椅子取り

椅子取りゲームを行い、負けた人はディープな質問に答えるゲーム。